

歯科コラム《矯正編》

Vol.2：矯正と審美の違いって？

「きれいな歯ならび」、「整った口元」そして「素敵な笑顔」etc...

歯科矯正の目標は人によって様々ですが、多くの方々にとってのイメージはこういったところではないでしょうか？

でも、ちょっと待ってください。

前回も少し書かせて頂きましたが、「よい歯ならび＝よい咬み合わせ」とは限りません。

歯には、食物をかみ砕いたり咀嚼したりという「食べる」機能と、コミュニケーションの手段である「発音」の両方に深く関わっています。また、「良く咬める」には、咀嚼という複雑なアゴの動きの中で、絶妙なバランスで歯と歯が機能する必要があります。これらを高いレベルでクリアするには、外せない咬合の「ルールと原則」があります。

勘のいい方であればお分かりかと思いますが、この「咬合のルール」に従い、基本的に自身の素材（＝歯）を生かして口元を整えていくのが歯科矯正治療、という事になります。

一方、「審美歯科」が咬合のルールを無視しているのか、というと、決してそんな事はありません。

辞書を紐解けば、審美歯科とは「歯の機能回復に加え、歯や歯肉の色、歯並びや口元の表情などの美しさを獲得・維持することを目的とする」とあります。

ちょっと待ってください。それでは何が違うの？ という事になりますね。

「天然歯（＝自分の歯）」を最大限利用し、その代わり年単位という時間をかけて歯の移動をおこなう「歯科矯正」に対し、あくまで「口元の調和と美しさ」を追求し、手段としては白いかぶせ物や詰め物、ホワイトニングやピンクエステ

ティックス（歯肉の審美処置）などを総動員して得られるのが「審美歯科」、と
いったところでしょうか...

次回のコラムは「矯正装置の種類」についてお話しします！

医療法人社団オーラルデザイン
オーラルデザイン下北沢・矯正歯科
院長（歯学博士）
任 剛一
TEL 03-6303-0061
URL: www.od-kyousei.com
MAIL: info@od-kyousei.com